

国 際 科 学 会 議
ICSU (International Council for Science)
(通称「イクス」)

1．沿革と概要

- (1) 1931年(昭和6年)にブラッセルで設立された非政府、非営利の国際学術機関。
我が国としては、ICSU創設以来、日本学術会議(昭和24年以前は、学術研究会議)が国家アカデミー会員として加入し、連絡対応の任に当たっている。

1998年4月にウィーンで開催された臨時総会において、定款及び細則の変更を行い、名称も International Council of Scientific Unions から International Council for Science に変更したが。なお、略称は、変えずに ICSU のままとしている。

- (2) 創立以来、ICSUは、国籍に関係のない研究協力、複合領域の研究協力、国際連盟との協力関係を推進してきた。

第2次世界大戦後、戦争が科学及び国際学術協力の発達に与えた多大の影響に堪がみ、政治を科学から遠ざけることを意図するとともに、自らを自然科学における最高機関とし、各国科学アカデミー全体の国際的 대표機関であると位置づけた。

ICSUは、その会員組織の活動等を通して世界中の科学者と接触しており、世界の学術社会のスポークスマンやアドバイザーとしての役割が増大している。とりわけ欧米における評価や影響力には極めて大きなものがある。

- (3) ICSUとUNESCOは協定を結んでおり、国際的学術の促進と発達のために、密接な関係を常に維持している。また、ICSUは、他の国連の諸機関とも協力関係にあり、各種の共同計画を行っている。

2．目 的

- (1) 国際的な科学技術活動を人類の利益と福祉のため奨励し促進すること。
- (2) その国際学術団体の活動の協調を促進する。
- (3) その国家アカデミー会員の国際的科学活動の協調を促進する。
- (4) 国際的な学際的科学計画を鼓舞し、企画し、調整し、実施に参加する。
- (5) 国際的次元をもつ科学的な出来事への助言団体として働く。
- (6) 関連する活動に携わる。

3．主な事業及び活動

(1) 国際合同研究計画

ICSUは、傘下の国際学術団体の活動の助成あるいは国際会議・シンポジウムの開催などを通じ、国際レベルの学術研究の連絡を図るとともに、ICSU単独あるいはUNESCOなどの国際機関と共同で、大規模な国際合同研究計画を実施し、多大の成果を挙げてきた。その主要なプロジェクトは以下のとおりである。

ア 国際地球観測年	(IGY)	1957～58年
イ 国際地球内部開発計画	(UMP)	1962～79年
ウ 国際生物学事業計画	(IBP)	1965～74年
エ 学術情報システム研究	(UNISIST)	1966～72年
オ 地球大気開発計画	(GARP)	1967～80年
カ 地球内部ダイナミックス計画	(GDP)	1972～79年
キ 国際生物学ネットワーク	(IBN)	1980～年
ク 気候変動国際共同研究計画	(WCRP)	1980～年
ケ 地球圏・生物圏国際共同研究計画	(IGBP)	1990～年
コ 科学能力開発事業計画	(PCBS)	1996～年

(2) 科学者の自由交流委員会

常置委員会として、本部を王立スウェーデン科学アカデミーの内部に置いている。

科学の普遍性の原則を守り、科学者の集会の自由、研究、発表の自由が保証されるよう、常に世界の出来事に目を光らせており、違反事項を調査している。

(3) 世界科学会議

ICSUは、UNESCOと共同で1999年6月にブダペストにおいて世界科学会議を開催することとしている。

4 . 組 織

(1) 運営組織

ア 役 員 (1996年10月選出)

会 長 W. Arber (スイス)

専門は、分子微生物学。スイス バーゼル大学元学長。
1978年ノーベル医学賞（制限酵素の発見）

役員には、他に以下のものがある。

前会長 J. Dooge (アイルランド)

副会長 D.A. Akyeampong (ガーナ)

副会長 J. Palis (ブラジル)

事務総長 H. Mooney (アメリカ)

会計理事 Y. Verhasselt (ベルギー)

イ 事務局

事務局長 J-F Stuyck-Taillandier

所在地 51, Bd de Montmorency 75016 Paris, France

ウ 総 会

全会員と役員により構成。3年ごとに開催。

1990年ブルガリア・ソフィア、1993年10月サンチャゴ、1996年ワシントン、1998年ウィーン（臨時）。

エ 総務委員会（1999年9月で廃止）

国際学術団体代表25と、総会により選出された国家アカデミー会員代表25により構成。

日本については、1964年以降継続して日本学術会議会員が総務委員として選出されている。

1年半ごとに開催（1996年以前は、毎年開催）。1992年エルサレム、1993年サンチャゴ、1994年モロッコ、1995年チェンマイ、1996年ワシントン、1998年ウィーン。

オ 執行委員会

役員6並びに総務委員会により選出された国際学術団体3及び国家アカデミー会員3により構成。毎年開催。

原則としてパリにおいて開催されるが、1991年については東京で開催された。

カ 付属学術組織 (27)（別紙 1 参照）

(2) 構成会員（別紙 2 参照）

ア 国際学術団体会員 (25)

イ 国家アカデミー会員 (72)

ウ 準会員 (24国際学術団体、4地域学術団体、15国家アカデミー)

エ 国家アカデミーオブザーバー (8)

5 . 財 政

加入団体やUNESCOからの助成金によってまかなわれている。

(1) 予算総額

320万米ドル

(2) 日本の分担金

164,616米ドル（1998年）

6 . 日本学術会議との関係

(1) 加入経緯

1931年にICSUが創立された際、日本学術会議の前身である学術研究会議がこれに加入し、1949年日本学術会議に引き継がれた。

1949年ICSUの第5回総会には、日本学術会議副会長 仁科芳雄 が派遣された。

(2) 役員

ア 日本学術会議の初代会長 亀山直人（任期1949～1953年）は、1954～55年ICSU執行委員となった。

また 茅誠司 会長は、1959～62年同執行委員、1963年にはICSU副会長を勤めた。

イ ICSUの総務委員としては、1964年以降継続して日本学術会議会員が総務委員として選出されている。

1964～66年 藤岡謙二郎

1966～71年 小谷正雄

1971～73年 渡辺格

1973～79年 伏見康治

1979～86年 渡辺格

1986～93年 伊藤正男（執行委員兼務）

1993～96年 軽部征夫

1996年～ 大橋秀雄